

地方銀行における 金融経済教育の取り組み



総合企画室 副調査役 若井 菜々子

要 旨

- 「お金とどのように付き合っていくか」を考え、実践していくことは、より快適で豊かな生活を過ごしていくために必要不可欠といっても過言ではありません。
- 地方銀行は、かねてより、金融経済教育に取り組んできましたが、近年、より分かりやすく、そして楽しく学んでいただけるよう、創意工夫を凝らした取り組みを進めています。
- 本レポートでは、それらの取り組みの中から、①親しみやすさを意識したウェブコンテンツの提供等（千葉銀行）、②キッチンカーを活用した金融・SDGs教室（東邦銀行）、③成年年齢引き下げに対応した動画の作成等（常陽銀行）、④行員の働く姿をよりリアルに見学できる職場体験の実施（福岡銀行）の4つの事例を紹介しています。

1. はじめに

お金とどのように付き合っていくか——様々なイベントが起こる人生において、私たちが安心安全に、そして心身ともに充実した生活をしていくために、いつ・どのように・どれくらいのお金が必要になるかを理解することはとても大切なことです。また、預金・資産運用・ローンなど様々な金融サービスを正しく理解し、利用していくことは、現代の生活に必要な不可欠と言っても過言ではありません。

地方銀行は、地域の将来を担う若い世代に対し、経済の仕組みや銀行の役割等への理解を深めていただくた

め、かねてより、金融経済教育に力を入れて取り組んできています¹。

本年4月には、成年年齢が引き下げられ、18歳から自らの責任でお金に関する様々な契約が可能となり、若年層に対する金融経済教育の重要性は一段と高まっています。こうした中で、地方銀行も、よりわかりやすく・親しみやすい内容となるよう、創意工夫を凝らした取り組みを進めています。

本レポートでは、こうした取り組みのうち、4行の事例を紹介します。

2. 親しみやすいウェブコンテンツ「お金リテラシー向上委員会」

千葉銀行は、本年4月、自行ウェブサイト内に、特設ページ「お金リテラシー向上委員会」を開設しました (https://www.chibabank.co.jp/special/money_guide/)。基本的なお金の管理やキャッシュレス決済、資産形成、ローンなどについて学べるコンテンツを掲載しています。

本サイトは、従来の銀行に対する堅いイメージを覆し、親しみを持ってもらえるよう、やわらかいタッチのイラストを使用しています。また、いくつかの質問に答えると、利用者とお金との相性が分かる「あなたとお金のマッチング診断」を提供し、楽しみながら学んでもら

えるよう工夫しています。マッチング診断の結果は、認知度向上等のため、SNSでシェアできる仕組みとしており、実際にSNS上では、様々なユーザーが診断結果を踏まえた投稿を行っています。

同行は、本ページひとつで、すべての世代がお金に関するあらゆる知識を得られるような場所にしたいと考えており、今後は、例えば、お金が必要になる時点と、その際に役立つお金の知識や金融商品・サービスの情報などについて、ライフイベントごとに掲載するなど、よりコンテンツを充実させていきたいとしています。

【(図表1)「お金リテラシー向上委員会」ページ】



あなたとお金のマッチング診断

新成人・新生活編

あなたはお金にモテる？モテない？

お金に愛されるかどうかは、あなたの日々の心がけ次第！

かんたんな質問に答えるだけで、あなたとお金の相性がわかります。スマートなお金とのつきあいをマスターして、お金モテを目指そう。

Illustration showing a man and a woman with a heart, and a man with a 'YES NO' sign.

あなたは、相性 **50%**

大器晩成？ビッグマウスさん

Illustration showing a man with a large mouth and a man with a small mouth.

▲ 千葉銀行提供

また、同行は、本年の6月25・26日の2日間にわたり、小学生とその保護者を対象に、仕事や投資に関するワークショップ「みらいの学びフェスティバル 2022」をオンライン開催しました（㈱イノビオットが運営。全4回実施、計590世帯が参加）。ここでは、小学生に人気の職業「YouTuber」を例にお金を稼ぐ仕組みについて説明したほか、小学生が投資のシミュレーションを行

う企画を提供しました。同行担当者によると、参加した小学生がいきいきと自分の将来の夢について語るなど、楽しく学んでいる様子であったほか、保護者の方からも、改めてお金のことを考えるよききっかけになったと好評だったとのこと。今後もこのようなイベント開催を通じ、銀行を身近に感じてもらえるよう取り組んでいきたいとしています。

【(図表2)「みらいの学びフェスティバル 2022」の様子】



▲ 千葉銀行提供

3. キッチンカーを活用した金融・SDGs教室

福島県に本店を置く**東邦銀行**は、「TOHOキッズcafeキャラバン」と称し、県内の子ども食堂をキッチンカーで訪問し、お弁当を配布するとともに、金融・SDGs教室を開催しています。同行は、従前より、小学校や商業施設に向かいの金融教室を行っていました。創立80周年記念を機に、地域の未来を担う子どもたちに地域におけるふれあいの場や機会を提供することで、コロナ禍で活動の場を失っている子どもたちの活力向上や健やかな成長に貢献したいとの想いでこの取り組みを始めました。

キッチンカーは、親しみやすい印象になるよう、デザインや色合いにこだわったということで、子どもたちからも「かわいい」と好評だそうです。対象としているのは、小学生とその保護者であり、これまで計3回実施し、30組90名を超える親子が参加しています。金融・SDGs教室では、持参してもらった紙幣に何が書いてあるか虫眼鏡で観察したり、「硬貨にはギザギザがいくつあるか」といったクイズを解くなどして、お金に関する興味を深めました。同行担当者は、銀行員として日常的に使っている言葉、例えば、新しい紙幣を指す「新券」

【(図表3)キッチンカー】



▲ 東邦銀行ホームページ (<https://www.tohobank.co.jp/company/esg/social/contribution.html>) より

が、子どもたちには伝わらず、「新しいお札」や「ピン札」といった言い方に改めるなど、表現の面で工夫をしたとのこと。今後、SDGsに関する内容もさらに充実させながら、現在は小学生のみとしている対象も、未就学児や中高生向けに拡大して、より幅広い層の子どもたちに金融・SDGs教室を提供していきたいとしています。

また、教室とあわせて行っている食事の提供も、現在はコロナ禍でお弁当の配布（持ち帰り）のみとのことで、今後、感染状況が落ち着いた際には、お弁当をそ

の場でみんなで食べてもらったり、さらに一步踏み込んだ食事の提供方法を検討するなど、ふれあいの場として、もより充実させていきたいとしています。

【（図表4）金融・SDGs教室の様子】



【（図表5）お弁当配布の様子】



▲ 東邦銀行提供

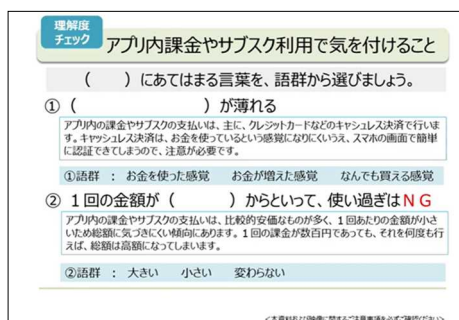
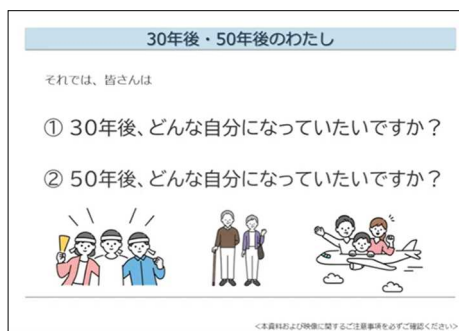
4. 成年年齢引き下げを受け、高校生向けの金融経済教育動画の提供

本年4月の成年年齢の引き下げ、および、新学習指導要領の改訂による高校での金融経済教育の義務化を受け、茨城県に本店を置く**常陽銀行**は、高校教育の現場で役立ててもらおうと、動画コンテンツ「高校生のための金融教室」を作成し、ウェブサイト上で公開しています (https://www.joyobank.co.jp/campaign/video_selection.html)。

本動画は、茨城県の教育庁と連携しながら作成しており、マネープランや資産運用、クレジットカード等のテーマについて、高校生にしっかり理解してもらえよう、難しい表現を避け、途中にクイズを挟んだり、最後に内容を

まとめて振り返るコーナーを作ったりするなどといった工夫をしています。動画を視聴した高校生からも「ライフプランやお金について考える良い機会になった」、「投資のリスクとリターンについて深く学ぶことができた」といった好意的な意見が寄せられています。現在は、県の教育委員会のウェブサイトに動画のリンクを載せていることもあり、公立高校での利用が中心となっているようですが、今後は、私立学校にも利用を広めていけるよう周知等を行ってきたいとのことです。

【（図表6）「高校生のための金融教室」スクリーンショット】



▲◀ 常陽銀行ホームページ「高校生のための金融教室」より

また、同行は、昨年10月に、鹿島アントラーズ・エフ・シー（以下、鹿島アントラーズ）の若手選手への支援プログラムとして、「Antlers Life Design Program【金融編】」を開催しました。選手たちに、お金にまつわる人生設計の大切さを理解し、資産形成に関心を持ってもらうきっかけを作ろうと実施したもので、ライフイベントやマネープラン、資産運用などについて説明しつつ、選手一人ひとりにライフプランを描いてもらいました。「20、30代で引退したら?」、「年俵を計画的に使うには?」といった、スポーツ選手ならではの視点も取り入れた内容としています。参加した選手からは、「プロサッカー選手である間はしっかりお金を貯め、計画的に生活していくべきだと感じた」、「今後は具体的な運用方法を学んでいきたい」などの感想が寄せられました。同行は、今後も、これらの取り組みを通じて、地域の方々へ資産形成の大切さを伝え、地域経済の持続的な発展に貢献していきたいとしています。

【(図表7)「Antlers Life Design Program【金融編】」の様子】



©KASHIMAANTLERS



©KASHIMAANTLERS

▲ 常陽銀行ニュースリリース (<https://sp.joyobank.co.jp/personal/invest/toshin/tokusyu/antlers/>)より

5. 「ジョブシャドウ」で働くことについて考える機会を提供

福岡銀行は、働くことについてのイメージを少しでもリアルに持ってもらうと、2008年より、地元の高校生向けに職場体験プログラム「ジョブシャドウ」を実施しています²。

本部の企画、営業統括、事務管理など様々な部署の行員1名に、高校生1名が常時同行（シャドウイング）し、行員の1日の仕事を見学します。高校生に、働くイ

【(図表8) 当日の様子 (リアル開催時)】



▲ 福岡銀行提供

メージをよりリアルに持ってもらえるよう、シャドウイングされるのは年齢の近い若手行員。「仕事」を見る一般的な職場体験とは異なり、「働く人」を見てもらうところが特徴です。毎年参加してくれる高校もあり、これまでに、グループ合計で1,000名を超える高校生が参加しています。実際に、参加した高校生からは、「もともと、銀行員といえば堅いイメージだったが、想像していたよりフランクだった」「営業店の窓口で働いている姿しか知らなかったけれど、それだけでなく、アプリ開発など様々な業務をしていることが分かった」といった声が聞かれ、銀行で働くことに対するイメージが変わったようでした。参加した高校生の中には、卒業後、ふくおかフィナンシャルグループ傘下の銀行へ就職した方もいるとのことでした。

また、シャドウイングされる若手行員側も、高校生から様々な質問を受ける中で、「改めて銀行で働くやりがいを考えることができた」と良い刺激を受けています。ここ2年は、コロナ禍でシャドウイングは実施できませんでしたが、行員と高校生数名によるオンラインディスカッションを通じて、今後の進路選択や将来設計、職業選択について学ぶ場を提供しています。オンラインの開催メリットとして、グループ傘下の銀行では、本部から遠方

の高校の生徒も参加できるようになったとのこと。

同行担当者は、本プログラムの醍醐味はシャドウイングであるため、いずれはまた実開催で行いたいとしながらも、それまでの間は感染状況を踏まえつつ、実参加とオンライン参加のハイブリット開催とするなど、オンラインのメリットも取り入れつつ、より参加者と行員の距離感を縮められるような工夫をしていきたいとしています。

【(図表9) 当日の様子(オンライン開催時)】



▲ 福岡銀行提供

6. おわりに

地方銀行各行は、それぞれ創意工夫を凝らし、地域の方々の金融リテラシーの向上の一助となるよう、様々な年代を対象とした取り組みを進めています。今回ご紹介した事例は一例であり、全国各地で、各地方銀行がセミナーを開催したり、金融を学ぶためのコンテンツを提供

しています。お金の管理や資産運用について興味・関心はあるが、何から始めたらよいか分からない、という方は、一度、各行のウェブサイトやSNS等にアクセスしたり、イベントに参加してみてもはいかがでしょうか。

¹ 全国銀行協会「全国銀行金融教育活動MAP」 (<https://www.zenginkyo.or.jp/education/map/>)

² 本取り組みは、ふくおかフィナンシャルグループの傘下の十八親和銀行、熊本銀行でも実施。